

IBM FormWave for WebSphere

レイアウト・コンバーター

バージョン 1.1

ユーザーズ・ガイド

注意

本書および本製品をお使いになる前に、まず ii ページの『特記事項』に掲載されている説明をお読みください。

第 2 版（2006 年 2 月）

本版は IBM FormWave for WebSphere レイアウト・コンバーター バージョン 1.1 に適用されます。

© Copyright International Business Machines Corporation 1999-2006. All rights reserved.

目次

第1章	概説	5
	レイアウト・コンバーターとは.....	5
第2章	インストールおよびセットアップ	6
	インストール	6
	セットアップ	6
第3章	基本操作	8
	HTMLファイルの作成.....	8
	レイアウト・コンバーターの起動	8
	入力ファイルの指定.....	9
	出力先フォルダの指定	9
	フィールド定義CSVファイルの出力先フォルダ指定	10
	フィールド名変換規則の指定	10
	ログファイルの指定.....	11
	変換の実行.....	12
第4章	変換パラメータの設定	13
	ヘッダー/フッター	13
	ヘッダー	14
	フッター	14
	フォーム	14
	フォーム開始タグ	15
	サブミット文字列	15
	フォーム終了タグ	15
	フィールド参照API	15
	フィールド参照API（HTML中）	16
	フィールド参照API（アトリビュート中）	17
	フィールド比較表現.....	17
	フィールドクリアAPI.....	17
	ファイル参照API.....	18
	変換規則の読み込み・保存	18

特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM*製品（機械およびプログラム）、プログラミング、またはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミング、またはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-8711

東京都港区六本木3丁目2-31

AP 事業所

IBM ワールド トレード アジア コーポレーション

コマーシャル リレーションズ

プログラミング インターフェース情報

本書では、プログラミング インターフェース情報を提供していません。

商標

本書中、以下の用語は、IBM コーポレーションの米国およびその他の国における商標です。

IBM
FormWave
WebSphere

本書中、以下の用語は、他社の商標です。

Microsoft	米国 Microsoft Corporation
Windows	米国 Microsoft Corporation
Netscape Navigator	米国 Netscape Communications Corporation

Netscape は米国およびその他の諸国の Netscape Communications Corporation 社の登録商標です。また、Netscape のロゴ、Netscape の製品名とサービス名は、Netscape Communications Corporation 社の商標です。（一部の国では、登録商標となっています。）Netscape Navigator の著作権は、Netscape Communications Corporation 社に帰属します。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

はじめに

本書は、「IBM® FormWave for WebSphere レイアウト・コンバーター バージョン 1.1」（以下レイアウト・コンバーター）の各機能の使用方法を解説したものです。

対象読者

本書は、レイアウト・コンバーターを使用して FormWave for WebSphere（以下 FormWave）の帳票開発を行う方を対象にしています。

前提知識

本書は、Windows システムでの基本操作（ウィンドウやファイルの操作など）、Web ブラウザーの基本操作および FormWave for WebSphere（このあと FormWave と記述します）のプロジェクト・デザイナーの基本操作を理解していることを前提としています。

前提条件

本ツールを使用するには、FormWave for WebSphere バージョン 4.01 以降の伝票開発環境が必要です。また、本ツールで使用する Java の実行環境は、Rational Application Developer 付属のもの、もしくは Java 2 Runtime Environment 1.4 のバージョンを使用することを前提としています。

第 1 章 概説

レイアウト・コンバーターとは

レイアウト・コンバーターは、既存の HTML ファイルから FormWave のレイアウトとして使用する JSP ファイルに変換するためのツールです。JSP 中で使用する FormWave のオブジェクトの初期化のためのコードや、入力フォーム中で FormWave のフィールド値を参照するためのコードのほか、処理ボタン生成用メソッド等を自動生成します。

本ツールを用いることにより、市販の HTML オーサリングツールで作成された HTML ファイルや、既存の Web アプリケーションの画面を FormWave の帳票レイアウトに簡単に変換可能です。

第2章 インストールおよびセットアップ

ここではレイアウト・コンバーターを使用するために必要な設定を説明します。

インストール

レイアウト・コンバーターは `LayoutConverter.jar` という JAR ファイルにアーカイブされています。`LayoutConverter.jar` を、本ツールで使用したい端末上にコピーしてください。

注) 本ツールを使用する端末には、あらかじめ **FormWave** の伝票開発環境がインストールされている必要があります。また、開発環境は SDP 版、WSAD 版、JRE 版のどれを使用しても問題ありません。

セットアップ

本ツールは `LayoutConverter.jar` のほかに、プロジェクト・デザイナーの JAR ファイル (`FormConnect.jar`) を使用します。

変換時に使用されるデフォルトのパラメータは `default.xml` に保存されています。`default.xml` をクラスパスの通ったフォルダに置いてください。

※ このファイルは、**FormWave** を動作させる WAS のバージョンによって対応するファイルが異なります。**WAS** バージョン 4.X 以前をご使用の場合には、**V4.X** フォルダの中に入っています `default.xml` ファイルを使用してください。

WAS4.X 以前用 : `V4.X¥default.xml`

WAS5.0 以降用 : `default.xml`

また、Java 2 Runtime Environment V1.3 以前の環境で動作させる場合には、XML を処理するために、XML4J (WebSphere Studio 環境に付属) または Xerces (WebSphere Studio Application Developer 環境に付属) を使用する必要がありますので、これらの Jar ファイルをクラスパスに通してください。

これらのファイルにクラスパスを通し、以下のように起動してください。

```
java com.ibm.FormConnect.tools.LayoutConverter.LayoutConverter
```

起動を簡単にするため、以下のようなバッチファイルを用意することをお勧めします。以下の例は Rational Application Developer 環境を使用した場合のものです。

```
@setlocal
set CP="C:\Program Files\IBM\Rational\SDP6.0\eclipse\plugins\com.ibm.FormC
onnect.design.eclipse\FormConnect.jar"
set CP="C:\FCTool\LayoutConverter.jar";%CP%
set CP="C:\FormWave\tools\layoutConverter";%CP%
java -classpath %CP% com.ibm.FormConnect.tools.LayoutConverter.LayoutConve
rter
@endlocal
```

第3章 基本操作

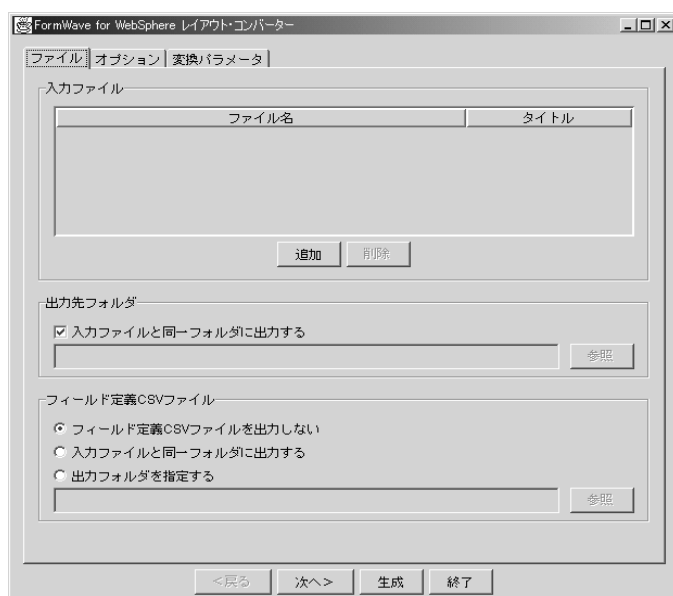
ここではレイアウト・コンバーターを用いて既存の HTML ファイルを JSP ファイルに変換するための基本的な操作を説明します。

HTML ファイルの作成

本ツールを使用する前に、変換元となる HTML ファイルを用意します。オーサリングツールやテキストエディタを用いて作成する他、既存の Web アプリケーションの画面を HTML 形式で保存する等して作成してください。

レイアウト・コンバーターの起動

第2章インストールおよびセットアップを参考にしてレイアウト・コンバーターを起動します。レイアウト・コンバーターを起動すると以下のような画面が表示されます。



入力ファイルの指定

ここでは変換元 HTML ファイルを指定します。

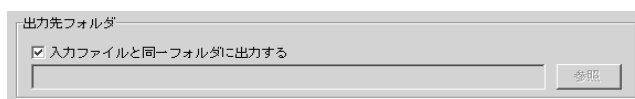


「追加」ボタンをクリックします。

ファイルダイアログが表示されますので、変換元 HTML ファイルを指定します。ここでは複数のファイルが指定可能です。入力ファイル一覧からファイルを削除するには、そのファイルを選択し、「削除」ボタンをクリックします（この時、ファイルは一覧から削除されるだけで、ファイルシステム上からは削除されません）。

出力先フォルダの指定

ここでは変換後 JSP ファイルの出力先フォルダを指定します。



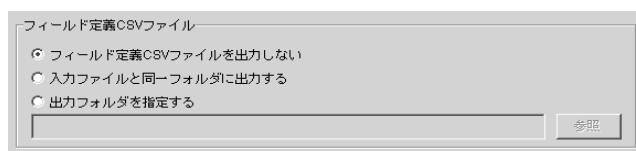
入力ファイルと同一フォルダに出力したい場合は「入力ファイルと同一フォルダに出力する」のチェックボックスをチェックしてください。

出力先フォルダを他に指定する場合はこのチェックボックスのチェックを外し、その下のテキストフィールドで出力先フォルダを指定してください。「参照」ボタンを押すことによりファイルダイアログが表示されますので、そこからフォルダを指定することも可能です。

ファイル名は入力ファイルのファイル名の拡張子を"jsp"に置き換えたものになります。

フィールド定義 CSV ファイルの出力先フォルダ指定

ここでは入力ファイルとして指定された HTML ファイルの中に記述されたフィールドを、FormWave のフィールドとしてインポートするための CSV ファイルの出力先フォルダを指定します。



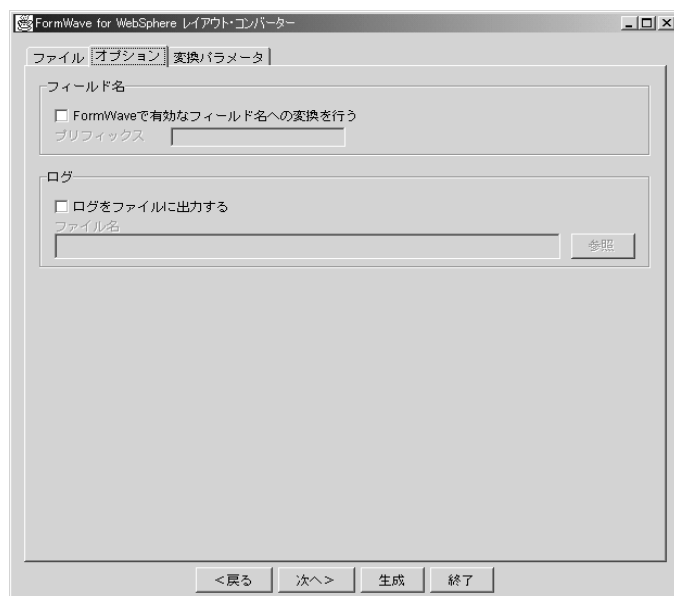
出力先フォルダは「フィールド定義 CSV ファイルを出力しない」、「入力ファイルと同一フォルダに出力する」、「出力フォルダを指定する」の中から選択します。「出力フォルダを指定する」を選択した場合はフォルダを指定します。

ファイル名は入力ファイルの拡張子を"csv"に置き換えたものになります。

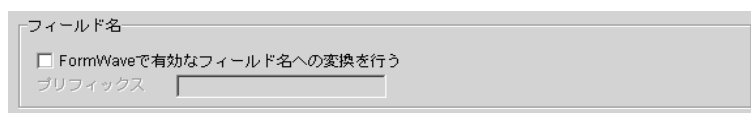
生成された CSV ファイルは「フィールド搬入・搬出ツール」を用いてプロジェクト・データファイルに取り込むことが可能です。詳しくはフィールド搬入・搬出ツールのユーザーズガイドを参照してください。

フィールド名変換規則の指定

「オプション」タブを選択するか、「次へ」ボタンをクリックすることにより以下の画面が表示されます。



ここではFormWaveのフィールド名として有効でないフィールド名を自動的に変換するかどうかを指定します。

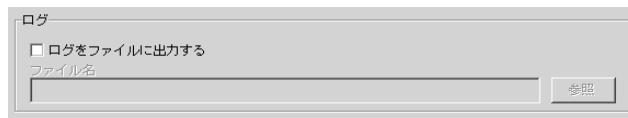


フィールド名の変換を行う場合には「FormWave で有効なフィールド名への変換を行う」をチェックし、フィールド名のプリフィックスを指定してください。FormWave のフィールド名として有効でないフィールド名が見つかった場合、このプリフィックスの後ろに番号を付けたフィールド名に変換されます。例えばプリフィックスとして'FWField'を指定した場合、FWField1、FWField2、FWField3、・・・に変換されます。

FormWave で使用できるフィールド名の規則についてはプログラマーズガイドを参照してください。

ログファイルの指定

ここでは変換ログを出力するファイルを指定します。



ログファイルを出力するには「ログをファイルに出力する」をチェックし、ファイル名を指定してください。

変換の実行

上記の指定をした後、画面下の「生成」ボタンをクリックします。
変換が実行され、以下のようなメッセージが表示されます。



JSP ファイルが作成されます。また、設定によりフィールド定義 CSV ファイル、ログファイルが生成されます。

第4章 変換パラメータの設定

ここでは HTML ファイルから JSP ファイルへの変換時に使用される各種パラメータを変更するための操作を説明します。

通常の FormWave のレイアウト用 JSP ファイルに変換する際は変更の必要はありませんが、フィールド値の参照に独自のクラスライブラリを使用したり、イベント処理用メソッドを生成させたい場合に変わります。

ヘッダー/フッター

「変換パラメータ」タブを選択し、「設定項目」で「ヘッダー/フッター」を選択すると以下の様な画面が表示されます。



ヘッダー

JSP の先頭にここで指定された文字列が挿入されます。JSP 中で使用するオブジェクトの初期化コード等を記述します。

フッター

JSP の最後にここで指定された文字列が挿入されます。イベント処理用のメソッド等も記述できます。

フォーム

「変換パラメータ」タブを選択し、「設定項目」で「フォーム」を選択すると以下のような画面が表示されます。

FormWave for WebSphere レイアウト・コンバーター

ファイル | オプション | 変換パラメータ

変換パラメータ

設定項目

ヘッダー/フッター
フォーム
フィールド参照API

フォーム開始タグ (<'form...'が以下の文字列と置き換わります)

サブミット文字列 (<'input type="submit"...'がこの文字列に置き換わります)

<% layoutControl.createActionButtons(out,null); %>

フォーム終了タグ (<'form...'が以下の文字列と置き換わります)

読み込み 保存

<戻る 次へ> 生成 終了

フォーム開始タグ

フォーム開始タグ (`<FORM ...>`) がここで指定された文字列で置換されます。JSP でフォーム部を表示させる直前に実行させたい処理を記述したり、フォーム開始タグを特定の形式に置き換えたい場合に指定します。空白の場合はフォーム開始タグは変更されません。

サブミット文字列

サブミットフィールド (`<input type="submit"...>`) がここで指定された文字列で置換されます。サブミット先として特定のあて先を指定したり、専用の API に置き換えたい場合に指定します。

フォーム終了タグ

フォーム終了タグ (`</form ...>`) がここで指定された文字列で置換されます。JSP でフォーム部を表示させた後に実行させたい処理を記述したり、フォーム終了タグを特定の形式に置き換えたい場合に指定します。空白の場合はフォーム終了タグは変更されません。

フィールド参照 API

「変換パラメータ」タブを選択し、「設定項目」で「フィールド参照 API」を選択すると以下のような画面が表示されます。



ここでは FormWave のフィールド値を参照するためのコードを指定します。ここで指定されたコードが各入力フィールドに挿入されます。

フィールド参照 API (HTML 中)

フィールドの値を参照し、HTML に表示するためのコードを指定します。'%(name)'の部分がフィールド名に置き換わります。例えばここで

```
layoutControl.convertToHtml(fieldAccess.getValue(\"%(name)\"))
```

と指定した場合、テキストエリアフィールド'Field1'は以下のように変換されます。

```
<textarea name="Field1">
  <%=layoutControl.convertToHtml(fieldAccess.getValue("Field1")) %>
</textarea>
```

これにより、テキストエリアの初期値として FormWave のフィールド'Field1'の値が使用されます。

フィールド参照 API (アトリビュート中)

フィールドの値を参照し、HTML のタグの属性として表示するためのコードを指定します。'%(name)'の部分がフィールド名に置き換わります。例えばここで

```
layoutControl.convertToAttr(fieldAccess.getValue("%(name)"))
```

と指定した場合、テキストフィールド'Field2'は以下のように変換されます。

```
<input type="text" name="Field2"
value='<%= layoutControl.convertToAttr(fieldAccess.getValue("Field2")) %>'>
```

これにより、テキストフィールドの初期値として **FormWave** のフィールド'Field2'の値が使用されます。

フィールド比較表現

フィールドの値を他の値と比較するためのコードを指定します。'%(name)'の部分がフィールド名に、'%(value)'の部分が比較対象文字列に置き換わります。例えばここで

```
fieldAccess.getValue("%(name)").equals("%(value)")
```

と指定した場合、チェックボックスフィールド'Field3'は以下のように変換されます。

```
<input type="check" name="Field3" value="Value3"
<%=((fieldAccess.getValue("Field3")).equals("Value3"))?"checked":"" ) %>>
```

これにより、**FormWave** のフィールド'Field3'の値が'Value3'の時、チェックボックスがチェックされます。

フィールドクリア API

フィールドの値をクリアするためのコードを指定します。**JSP** を指定する場合は'<%'および'%>'も指定します。

チェックボックスは、チェックしない場合の情報は **HTTP** サーバーに送られないため、あらかじめフィールドをクリアしておきます。ここで指定された文字列がチェックボックスフィールドの後に挿入されます。

ファイル参照 API

ファイルフィールド（<input type="file"...>）がここで指定されたコードに置き換わります。'%(name)'
の部分がフィールド名に置き換わります。JSP を指定する場合は'<%'
および'%>'も指定します。

変換規則の読み込み・保存

ここで指定する変換規則は XML ファイルで保存可能です。保存する場合は「保存」ボタンをクリックしてください。

レイアウト・コンバーターは起動時にデフォルトの変換規則としてクラスパス中の **default.xml** を読み込みます。デフォルトの変換規則を変更したい場合はこのファイルを上書きしてください。

また、既存の変換規則ファイルを読み込む場合は「読み込み」ボタンをクリックしてください。